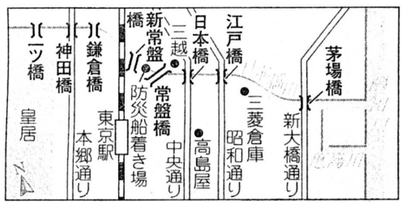
川 t-hatsu@tokyo-np.co.jp

地元が舵取り
江戸運河ツアー
日本橋活性へ夏までに運行

日本橋川の江戸橋付近を巡るボート。後方は日本橋周辺のビル＝写真はいずれも中央区の日本橋川で

東京都中央区で、日本橋川を巡る運河ツアーが計画されている。主催は、観光などを通して地元の活性化を図っている日本橋美人推進協議会（山本徳治郎会長）。二十二日には、地域で働く女性の試乗会が開かれた。運河から見た東京の風景は―。



日本橋本石町の常盤橋防災船着き場に日本橋OLクラブのメンバー十二人が集合した。同クラブは、日本橋の発展に、地域で働く女性たちのアイデアを取り入れようと八年前に発足した。運河ツアーは日本橋近辺を周遊する約一時間のコース。長さ約六㍍、幅約三㍍の米国製ボートで、乗客は十二人まで。千代田区所有の船だが、計画実行となれば、同型の船を使う予定だ。船窓は透明なプラスチック製で開放感がある。エンジン音は静かだ。

中央区の特定非営利活動法人（NPO法人）「あそんで学ぶ環境と科学倶楽部」の中林裕貴理事長がガイドをしつつ、舵を取る。

水路の地図を配り「日本橋川を下ると隅田川、上ると神田川とぶつかります」と中林さん。川は波もなく静かで緑色。四百㍍も下ると、日本橋。くぐると暗い。

「うわー、初めて下から見ました」とOLたち。橋の上に日本橋三越が見える。

さらに百㍍進み江戸橋を抜ける。船をイメージさせる三菱倉庫ビル。七十八年前に建てられた。「江戸橋から下流はかつて倉庫街でした」と中林さんが説明する。

中林さんは「川の透明度は、どれくらいでしょう？」と問いを投げかけた。

「二十㌢ぐらいかな」との声。中林さんが、細長い瓶のような透視計で川の水をすくうと、無色透明だ。OLたちは「えっ、こんなにきれいだったの」と声を上げた。

「透明度は二㍍半。水はきれいになりましたが、生態系が崩れ、植物性プランクトンが多いから、緑色に濁って見えるのです」と中林さん。Uターンして川上へ。頭上の高速道路の造形が美しい。新常盤橋を過ぎると鉄橋をJR山手線や中央線が通り、遠くに東京駅が見える。川面でウミネコ、ユリカモメ、スズガモが羽を休める。

鎌倉橋に着くと「江戸の街を造るため、鎌倉から材木を運んだから名付けられました」。錦橋を過ぎると古い石垣が。「各藩が運んだのです。石に刻まれた紋章が見えますか」とガイドが続く。

OLクラブの新井夏子さんは「見慣れた所なのに、いつもと違う風景。ガイドも面白かった。また乗りたい」と感激した様子だ。

㊤試乗会に臨む日本橋OLクラブのメンバー
㊦ボートの操縦とガイドを務める中林裕貴さん

「わー、すてき」と思わず写真を撮る

日本橋美人推進協議会は、地元企業や名店が協力し、街を活気づけるさまざまな試みを続けてきた。昨年十一月には「江戸日本橋観光めぐり」と名付けたツアーができた。三井タワーから出発し、老舗や博物館などを巡る。ボランティアガイドや店員らによる史跡や文化にまつわる話を聞きながら歩くイベントで、毎回約十人が参加し、好評だという。

運河ツアーは、それに続く企画。「観光めぐり」の伊藤一正事務局長は「江戸時代は商業の中心地で、川や運河を使った交通の要衝だった。この水路を生かそうと思った」と話す。

具体的には「現在月二回（第三、第四火曜日）の江戸日本橋観光めぐりと結び約二時間のコースにする。要望が多ければ、コース延長や運河ツアー単独の実施も考えます」という。料金は無料で、夏までには運行の予定とか。

同ツアーを機に、東京の水路がもっと開けてベニスのような街になれば楽しいに違いない。問い合わせは、江戸日本橋観光めぐり事務局＝電03（3668）0390＝へ。

文・吉岡逸夫／写真・神代雅夫／紙面構成・佐野貴晴

日本橋川舟めぐりの試乗会関連記事